

**第3次芦屋市地域福祉計画の策定に向けた  
「地域の福祉を話しあう市民会議」**

**報告書**

**平成28年2月**

**芦屋市地域福祉市民会議**



# 目 次

<b>はじめに</b> .....	1
<b>市民会議の経過</b> .....	2
<b>話しあいのなかで見えてきたこと・みんなで考えてきたこと</b> .....	4
1. 日頃の活動などを通じて感じている「課題」 .....	4
2. 課題が「解決された状況」（理想の姿） .....	6
3. 「理想の姿」（めざすべき状態）を実現するための「条件」と「活動・事業」 .....	8
4. “民”と“公”が協働して「先導的に取り組む活動や事業」 .....	10
プロジェクト ①A イベント仕掛人 .....	10
プロジェクト ①B ALL ASHIYA フェスティバル月間 .....	12
プロジェクト ② スマートおせっかい .....	13
プロジェクト ③ あしや玉手箱 .....	14
プロジェクト ④ ワーカー登録（ひとり一役 Part2）（仮） .....	15
5. 今後の取組の提案（いっしょに取り組みたいこと） .....	16
6. 市民意識調査に活かしてほしいこと .....	17
7. 市民会議の参加者からのメッセージ .....	18
<b>資 料</b> .....	22
地域福祉市民会議ふりかえり（スライド） .....	22
ニュースレター（第1号～第5号・臨時号） .....	26



## はじめに

平成27年8月21日に、第3次芦屋市地域福祉計画の策定に向けた市民会議がスタートしました。

市民会議を開催するスタイルは、第1次の地域福祉計画を策定した平成18年度から行われていたものです。

とりわけ、第2次の地域福祉計画の策定においては、より多くの市民が参加し、主体的に計画を策定・推進しようと“とことん話しあった”結果をふまえ、「芦屋の地域福祉」の推進目標を、「たすけ上手でたすけられ上手な人になり、[All Ashiya]の力をあわせて、心地よく暮らせる福祉を創造します」としました。

これらの過程を経て、第3次の地域福祉計画は、第2次の計画を推進する中で、さまざまにつながった市民を中心に、日常の地域福祉活動のつながりを活かして、さらに多くの新たな人々が、市民会議に参集しました。

市民会議では、日頃感じる課題から、「芦屋がこんなまちになったら良いな」を実現するためのいわゆる「ビジョンづくり型ワークショップ」という方法で、夢を語りあいながら、できることを考えていきました。

「地域福祉を広げる」「地域福祉でつなぐ」をキーワードに5つの企画案ができあがりました。

「イベント仕掛人」「ALL ASHIYA フェスティバル月間」「スマートおせっかい」

「あしや玉手箱」「ワーカー登録(ひとり一役 Part2)(仮)」

市民会議は、企画案を共有して終了しましたが、今後は、計画の策定とともに、これらの企画案の実現に向けて取り組んでいきます。

平成28年2月

芦屋市地域福祉市民会議

# 市民会議の経過

## 1. 市民会議の目的

**地域福祉をみんなですすめるための計画を、みんなでつくるための、最初のステップとして開催しました。**

芦屋市では、市民、団体、事業者、社会福祉協議会、市・行政機関等の「公・民」のさまざまな主体が協働して【地域福祉】を推進するための指針として、「芦屋市地域福祉計画」を定めています。

現行計画である第2次の計画が平成28年度で終了することから、平成29年度からの第3次の計画を、27～28年度の2か年をかけて検討・策定することになりました。

この計画は「みんなですすめる計画」ですので、芦屋市の地域福祉に関わるさまざまな人々の思いやニーズを反映するよう、多様なかたちでの参加をすすめながら、策定していく必要があります。「地域の福祉を話しあう市民会議」は、その最初のステップとなる取組として、現行計画とも関連する地域福祉活動に参加している市民や関係者が、日頃の活動の成果や課題を出しあい、地域の課題が解決された「理想の姿」を実現するための条件や活動を検討し、「地域福祉計画策定委員会」に提案していくことで、実現性の高い計画づくりにつないでいきたいと考えて取り組みました。

## 2. 市民会議のメンバー

**地域福祉活動に関わる市民と、関係機関・市の職員などが一緒に話しあいました。**

第2次の計画に基づく取組の成果と課題を、第3次の計画に的確に反映していくよう、つぎのメンバーでスタートしました（参加者は資料編に掲載）。また、議論に応じて必要な人に参加していただくよう、会議の様子を報告するニュースレターを通じて呼びかけました。

- |                           |              |
|---------------------------|--------------|
| ① 地域発信型ネットワークに関わっている市民    |              |
| ② 地域福祉アクションプログラムに関わっている市民 | ③ 公募市民       |
| ④ 関係機関の職員                 | ⑤ 専門員（学識経験者） |
|                           | ⑥ 事務局        |

## 3. 市民会議の目標

**地域福祉計画への提案とあわせて、計画の推進につながることも大切にしました。**

市民会議の目標として、つぎの2点を設定しました。

- |   |
|---|
| ① 活動のなかで見てきた課題を共有し、解決に向けて「公」「民」が分担・協働して取り組むためのアイデアを、計画への提案として取りまとめる。    |
| ② 話しあいを通じて市民どうし、市民と市が理解しあい、それぞれの強みを活かして協働して計画を推進するしくみづくりにつないで、活動を広げていく。 |

## 4. 市民会議で大切にしたいこと

**All Ashiya の多様な立場の人々がお互いに尊重しあい、各々の強みを活かして協働することで、新しいものを生み出すことをめざしました。**

「Ashiya」の語呂あわせとなるつぎの4点を共有し、話しあいをすすめました。

- ① 地域やテーマごとの課題を、[All Ashiya]の視点で考えましょう！
- ② 各々の強み (strength) を活かす方法を考えましょう！
- ③ さらに呼びかけ (hail) で、いっしょに考えましょう！
- ④ なにより、面白い (interesting) 話しあいに行きましょうや (ya) !

## 5. 話しあいの流れ

**5回の会議と1回の自主ゼミで話しあいを重ね、提案をとりまとめました。**

計画策定委員会のスタートに向けて平成27年8月～平成28年1月の6か月で5回の会議を設定し、さらに議論を深めるために自主ゼミ1回を開催して話しあいました。

なお、会議の進行を市民や市職員がサポートしてスムーズにするために、事前に「テーブルファシリテーション講座」を開催しました。

会議名	日時	会場	内容	参加者数
第1回 市民会議	27年8月21日 13:30～16:30	市消防庁舎 3階多目的ホール	第2次の計画の進捗状況を共有する 市民会議のすすめ方を共有する 自己紹介（取り組んでいること） 活動で感じている課題を共有する	40人
第2回 市民会議	27年9月16日 13:30～16:30	市消防庁舎 3階多目的ホール	課題を深める 市民会議で検討するテーマをしぼる 課題が解決された理想の姿を考える	26人
第3回 市民会議	27年10月16日 13:30～16:30	あしや市民活動 センター会議室C・D	理想の姿を整理する 実現の条件と活動や事業を考える 先導的に取り組む活動や事業を選ぶ	30人
自主ゼミ ①	27年11月19日 9:30～11:30	市役所東館 3階大会議室	各グループの話しあいを共有する 各テーマのすすめ方を考える 各グループでのすすめ方を考える	16人
第4回 市民会議	27年12月18日 13:30～16:30	市役所東館 3階大会議室	活動や事業を選び企画書をつくる	29人
第5回 市民会議	28年1月19日 13:30～16:30	市役所東館 3階大会議室	プレゼンテーションの準備 わたしたちが協働して取り組みたい こと（プレゼンテーション） 今後の取組に向けて（報告書の作成 も含めて）	28人

## 6. 今後の展開

**地域福祉計画に的確に反映するよう検討しながら、具体的な取組をめざします。**

市民会議の提案が第3次の計画に的確に反映されるよう、引き続き計画策定に参画するとともに、市民会議で検討した「先導的に取り組む活動や事業」等の具体化に向けた取組を、若い世代も含めて幅広い市民に参加を呼びかけながら推進していきたいと考えています。

# 話しあいのなかで見えてきたこと・みんなで考えてきたこと

## 1. 日頃の活動などを通じて感じている「課題」

市民会議では、まず、メンバーが日常的に取り組んでいる活動や業務を通じて、また、市民として生活するなかで感じている地域福祉に関する課題を出しあい、共有しました。

多様な立場のメンバーからさまざまな課題が出されました。これらを、市民会議で検討したいテーマ（それは、第3次地域福祉計画で推進する取組とも重なるものと考えられます）を意識して整理すると、下表のようになりました。

検討したいテーマ	日常の活動などを通じて感じている具体的な課題
情報を伝えられない・得られない	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動をネットで知らせたい</li> <li>行政からの画一的な情報では取捨選択が難しい</li> <li>近くて気軽に行ける飲み屋や遊べる場を知らない</li> <li>民生委員さんの役割が知られていない</li> <li>「困ったときにどこに相談したらよいか」を知ってもらおう</li> <li>情報を「聞きたい人」と「知っている人」をつなぐ役がない</li> <li>地域のイベントや困ったときのサービスの情報が得やすいように工夫</li> </ul>
障がいのある人への理解が不足している	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいに対する理解</li> <li>視覚障がいのある人に対する市民の理解や、歩行中の注意・見守りをお願いしたい</li> </ul>
日常の見守りや支援が必要な人がいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり暮らしの住民の発見・登録</li> <li>ひとり暮らしの高齢者の見守りや熱中症などの発見</li> <li>ひとり暮らしの高齢者、障がいのある人、要支援者の見守りを、地域で支援</li> </ul>
災害時の支援が必要な人がいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急災害時の高齢者・障がいのある人の支援</li> <li>災害時に要援護者を支援する方策</li> </ul>
引きこもりや支援を拒否する人がいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>引きこもりの人が思った以上にたくさんおり、どうしていいかわからない</li> <li>引きこもっている人が、「まごのて」を活用できるように</li> <li>閉じこもっている人の出かける場所がほしい</li> <li>「支援はいらない」と拒否する人へのアプローチの方法がわからない</li> </ul>
制度の隙間となる困りごとがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>制度にあてはまらない困りごとの「隙間の支援」はだれが担うか</li> </ul>
個人情報の問題で活動しにくい	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援したくても、個人情報保護の壁がある</li> </ul>
地域でのつながりが少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>近くに知りあいや友だちが少ない</li> <li>ひとり暮らし高齢者は接点が少ないが、プライバシーや面倒なことに関わりたくない</li> <li>子どもと高齢者だけでなく、働き盛りの世代や中高生・大学生などと世代間交流する</li> <li>自治会に入っていない人と自治会長さんのつながり</li> <li>マンショントラブルを円満に解決する方法</li> </ul>
地域活動への関心や意識が低い	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活動に参加しない人が増えた</li> <li>非協力的な人・無関心な人</li> <li>何を企画しても呼びかけても無関心・非協力的な人</li> <li>若い世代の人は地域に興味がない</li> <li>自治会等への参加者が減少しており、声かけが必要</li> <li>無関心な人が多いので、助けあいや声の掛けあいが大事</li> </ul>



検討したいテーマ	日常の活動などを通じて感じている具体的な課題
地域活動への参加者が少ない・固定化している・参加しにくい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動への参加者が限られる</li> <li>・行事への参加者が少ない・固定されている</li> <li>・生きがいがづくりの場を提供しても、参加される方が同じ</li> <li>・気持ちがあっても地域に出られない人</li> <li>・地域デビューのハードルが高そう</li> </ul>
地域活動の担い手が不足・固定化・高齢化している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動に参加する人がだいたい同じ顔ぶれ</li> <li>・人材不足で、積極的に協力してもらえる若い人を探すことが難しい</li> <li>・地域の活動者が高齢化しているので、若い人にも参加してもらいたい</li> <li>・地域活動を継続するための後継者がいない</li> <li>・担い手が不足しており、趣味の活動から一歩踏み出してもらおうとよい</li> <li>・地域行事の担い手を広げる・つなげる・育てる</li> <li>・自治会活動の協力者づくり</li> <li>・活動の入口を広げるよう、積極的に直接、声を掛ける</li> <li>・ボランティアとは呼ばずに、「求む力持ち 手伝って！」</li> </ul>
地域活動のネットワークが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での福祉ネットワークづくり</li> </ul>
活動への支援が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見が多様で自治会がリーダーシップを発揮しにくく、行政のきっかけがあれば動きやすい</li> <li>・「まごのて」に担当者1名が常駐すれば、もっと地域住民の場になる</li> <li>・地域活動を続ける財源が乏しく、確保が難しい</li> </ul>
まちにバリアがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道上に駐車してある</li> <li>・視覚障がいのある人がひとりで歩いていると、白杖を引っかけられて困る</li> <li>・広い道路の交差点では信号の位置がわかりにくいので、音声装置を</li> <li>・交差点を通行している視覚障がいのある人に、一声「赤ですよ」、「青ですよ」の声かけがほしい</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相続について、生前の対策のすすめ方の学習</li> <li>・小学校の児童が増えて教室が足りなくなっているため、校区割りを考え直してはどうか</li> <li>・高級すぎる住宅地イメージからの脱却</li> </ul>

そして、これらのなかから、まず解決に向けて、具体的にすすめるテーマを選ぶためにメンバーで投票を行い、項目ごとの得点をもとに話しあって、つぎの4つに決定しました。

市民会議で具体的に検討をすすめていくテーマ
<p><b>【テーマ ①】 地域活動を活性化する必要がある</b>（以下の各項目の合計点数が56点）</p> <p>地域でのつながりが少ない、地域活動への関心や意識が低い、地域活動への参加者が少ない・固定化している・参加しにくい、地域活動の担い手が不足・固定化・高齢化している、地域活動のネットワークが必要</p>
<p><b>【テーマ ②】 支援が必要な人がいる</b>（以下の各項目の合計点数が46点）</p> <p>日常の見守りや支援が必要な人がいる、災害時の支援が必要な人がいる、引きこもりや支援を拒否する人がいる、制度の隙間となる困りごとがある</p>
<p><b>【テーマ ③】 情報を伝えられない・得られない</b>（29点）</p>
<p><b>【テーマ ④】 活動への支援が必要である</b>（19点）</p> <p>個人情報の問題で活動しにくい、さまざまな会議体が課題の抽出や解決に向けて連携できていない</p>

(※)「認知症の人や障がいのある人への理解が不足している」と「まちにバリアがある」については地域福祉の基盤としてすべてのテーマで意識して検討することにしました。

## 2. 課題が「解決された状況」(理想の姿)

課題を解決していくためには「課題分析」が必要であることは言うまでもありませんが、多様な人々が集まったなかで問題を突き詰めていくと、議論が萎縮しがちになってしまいます。

そのため今回の市民会議では、まず、課題が解決された「理想の姿」を描き、それを実現するための条件や取組を考えていくことで、推進する取組も明らかにしていく「ビジョンづくり型ワークショップ」という方法で話しあいをすすめることにしました。

グループに分かれての話しあいの結果、つぎのような「理想の姿」と必要な条件、活動などが見えてきました。

### 【テーマ①】「地域活動を活性化する必要はある」を解決するために

#### (理想の姿)

- ・自分の自治会のメンバーの顔がわかる
- ・さまざまな団体がつながり、活動が広がる
- ・活動を選べるように情報を発信する
- ・参加することが楽しい活動がある
- ・子ども(と親)が参加できるイベントがある
- ・町の結束を高めるイベントがある
- ・イベントのなかで次の世代の活動家が見つかる
- ・男性が参加者の50%を占める
- ・現役世代も参加できる活動がある
- ・団塊の世代の人が地域デビューできる

### 【テーマ②】「支援が必要な人がいる」を解決するために

#### (取組の目的)

- ・支援が必要な人が拒否をしない

#### (理想の姿)

- ・支援を求めている人が、どこにいるかがわかる
- ・支援が必要な人たちが集まる場が、適当な範囲のエリアごとにある
- ・支援する側とされる側のネットワークがある

#### (必要な条件)

- ・困ったときに助けを求めたり、外出したくなるような場がある
- ・会いたい人がいる、食べたいもの、聴きたい音楽、地域の商店などの場がある
- ・言葉の壁がある外国人の交流の場がある
- ・心のバリア・垣根をなくす(子どものときから関わったり学校で教える機会を増やす)
- ・支援をする側とされる側、当事者どうしがお互いに支えあう(接触のきっかけづくり)
- ・さりげない見守りが意識づいている(経験があれば自然にできる)
- ・メールなどだけでなく顔をみて話す機会を増やす(ご近所づきあいから)
- ・まちのバリア(道路、コミュニケーションなど)をなくす
- ・情報を共有する
- ・市民(商店なども)と専門職が協働して課題を解決する(支援が必要な人を支える)
- ・生活していて安心なまちにする(何かあったときに「たすけられ上手」になる)
- ・防災の情報が必要な人に行き渡る

**【テーマ ③】「情報を伝えられない・得られない」を解決するために**

(取組の目的)

- ・ 芦屋市民を情報弱者にしない (そのために、普及率が高いスマートフォンや携帯電話を活用する・これらを持っていない人への対応も考える)

(理想の姿)

- ・ 必要な人に、必要な情報が、必要なときに伝わる
- ・ ほしい情報や相談したい内容を発信すれば、すぐに回答が得られる

(必要な条件)

- ・ みんなに行き渡るしくみづくり (キーワードは「平等」)
- ・ いろいろな世代で関心がある分野の情報を入手できるしくみづくり (メルマガなど)
- ・ お得な情報が入手できる (行事, 安売り, 医療など)
- ・ 普及率が高いスマートフォンや携帯電話を活用し、持ってない人への対応も考える

**【テーマ ④】「活動への支援が必要である」を解決するために**

(理想の姿)

- ・ 仕事で得た知識や体験を役立てられるしくみがある
- ・ 男性が参加したくなる活動がある
- ・ いろいろな部署が市民と話しあい、いろいろな担い手が集まる
- ・ 困りごとや悩みを気軽に話せる場所がある
- ・ 集会所の利用時間の縛りを緩める (今ある「しくみ」を見直す)

(具体的な活動)

- ・ 「定年したら地域デビューしよう！」をスローガンとした活動を展開する (そうした人のニーズを把握する必要がある)
- ・ 「まごのて」を活用する

これらのなかから、市民・団体・事業者などの「民」と市・関係機関などの「公」が協働して先導的に取り組む活動や事業を考えていく「理想の姿」を、つぎのように絞りました。

【テーマ】	先導的に取り組みたい活動・事業《理想の姿》
【テーマ ①】 地域活動を活性化する必要がある	自分の地域の人の顔が分かる 自分の地域のメンバーの顔がわかる
【テーマ ②】 支援が必要な人がいる	支援する側とされる側のネットワークの中で、支援が必要な人が分かり、集まる場所がある
【テーマ ③】 情報を伝えられない・得られない	必要な人に、必要な情報が、必要なときに伝わる
【テーマ ④】 活動への支援が必要である	仕事で得た知識や体験を役立てて活動に参加している

(※) 【テーマ ①】は関心が高いメンバーが多かったため、2つのグループに分かれて、先導的に取り組む活動や事業を検討していくことにしました。

### 3. 「理想の姿」(めざすべき状態)を実現するための「条件」と「活動・事業」

芦屋市の地域福祉をすすめていくうえで、まず目標として取り組んでいく「理想の姿」(めざすべき状態)が出てきましたので、つぎに、それを実現するためにはどのような「条件」が必要なのか、また、その「条件」にあった「活動」や「事業」としてどのようなものがあるのかを、現状の課題も含めて多様な立場から出しあい、整理しました。

そのなかで、市民・団体・事業者などの「民」と、市・関係機関などの「公」が協働して、芦屋市の地域福祉の推進に向けて先導的に取り組みたい、ネーミングにもこだわった具体的な「活動・事業」が見えてきました。

#### 【テーマ ①A】地域活動を活性化する必要がある

##### 《理想の姿》自分の地域の人の顔が分かる

- ・「非日常的」な取組として行っているイベントでは、新しい人が参加しないという問題とともに、やる側もこなすことに必死で参加者の意見を聞くこともできずに「一方的」になっており、「顔がわかる」ことに達していない。
- ・「日常的」な取組のあいさつや小さなグループで集まることなども、まだまだ少ない。
- ・地域のいろいろなことを調べるために、アンケートをとってはどうか。景品などを活用すれば参加のきっかけになり、つながりづくりのツールにもなる。
- ・他の自治会との連携が少ないので、防災訓練などでつながりを広げていってはどうか。
- ・自治会対抗の活動なども面白いので、こうしたことをやって情報発信できるとよい。
- ・他の地域の「イベント」は意外と知られていないので、情報を発信していく必要がある。
- ・「イベント」は地域の活動を活性化するうえで最もやりやすいが、成功させるには多くの人の参加が必要で、参加を通じて関わりもできるが、スタッフや財源などの問題がある。
- ・「イベント」などに若い世代に参加してもらううえでコミスクとの連携が考えられるが、地域との接点は意外とない。しかし、つなぐ人の状況によって地域で差がある。

先導的に取り組む活動・事業

#### 「イベント仕掛人」

#### 【テーマ ①B】地域活動を活性化する必要がある

##### 《理想の姿》自分の地域のメンバーの顔がわかる

- ・あいさつや声かけをする、しょっちゅう外出する、障がいのある人や高齢者を訪問する、イベントをして地域の人に参加してもらう、そのための環境を整えるといったことが必要である。
- ・イベントをするにはお金がかかるので、お金を生み出す取組(フリーマーケット、助成金、資源ゴミ回収等)も重要である。
- ・「財源確保」もいろいろな方法があるが、必ずしも知られていないので、情報を発信していく必要がある。
- ・全市がまとまってできるイベントとして、各々の家でできるオープンガーデンやガレージセールなど「〇〇の日」を決めて実施してはどうか。地域ごとに特徴のある取組(大きな負担なくできること)をして、スタンプラリーで回れるようにしてもよい。

先導的に取り組む活動・事業

#### 「ALL ASHIYA フェスティバル月間」

【テーマ ②】支援が必要な人がいる

《理想の姿》支援する側とされる側のネットワークの中で、  
支援が必要な人が分かり、集まる場所がある

- ・同じ悩みをもっている人どうしを引きあわせる場所、会いたくなる人がいる場所、声を掛けあえる場所、安心して本音を話せる場所、自分ができることを自慢できる場所、お互いに好きなことを言いあえる場所、同じ会話ができる人が集まる場所などが必要であり、近くにあるように、空きスペースを利用してつくる。行きたい場所のリストもほしい。
- ・弱みや強みを言える人、そういう人を調整する人が、市民と専門職の両方で必要である。
- ・こうしたことの啓発やアピールをするよう、視覚的にわかりやすく発信したい。
- ・縛られて形式張った堅いネットワークではなく、ゆるいネットワークがあるとよい。

先導的に取り組む活動・事業

### 「スマートおせっかい」

【テーマ ③】情報を伝えられない・得られない

《理想の姿》必要な人に、必要な情報が、必要なときに伝わる

- ・必要な情報のひとつである「広報あしや」がまんべんなく行き渡るように、点字・音声版等のいろいろな媒体や郵送配布等をPRする。
- ・情報を伝えるシステムとして、メール配信や、イベント、防犯、医療などの情報を発信するサイトがあるとよい。
- ・広報を近所に届けるボランティアや、友達をつくる取組も必要である。
- ・子どもや高齢者の見守りアプリのように、スマホ等のITを使って情報共有できないか。
- ・自分から情報を求められない人への発信が課題であり、必要な情報を書き出して検討する。

先導的に取り組む活動・事業

### 「あしや玉手箱」

【テーマ ④】活動への支援が必要である

《理想の姿》仕事で得た知識や体験を役立てて活動に参加している  
(スローガンは“定年したら地域デビュー”)

- ・自分のことをアピールでき、お互いに知りあえる場があるとよい。
- ・イベントなどで活動できる人をマッチングするしくみが必要である。
- ・退職した市職員に経験や知識を活かして地域の活動に参加してもらってはどうか。また、若い職員が仕事として参加し、地域の課題を感じて市につながることも必要である。
- ・電球交換、留守のときの水やり、犬の散歩、囲碁を教えるなど、気軽に活躍できる場があるとよい。引きこもりの人が一般就労につながるまでの活動の場としても活用できないか。ただし、「仕事」などとの重なりも考える必要がある。
- ・「できる人」と「してほしい人」のコーディネートが必要であり、アプリを使ったり、「おせっかいな人」がつけられるとよい。
- ・登録して人の役に立ったという経験が、将来的に「おせっかい」に発展するとよい。
- ・これはいろいろな活動にプロボノなどの専門的な知識をもつ人やサークルなどの助けを借りるしくみであり、地域福祉のすべての取組に関係してくる。

先導的に取り組む活動・事業

### 「ワーカー登録（ひとり一役 Part2）(仮)」

## 4. 「民」と「公」が協働して「先導的に取り組む活動や事業」

市民会議では、メンバーが感じている課題を提起するだけでなく、具体的な解決策のアイデアとして5つのプロジェクトの企画書を作成しました。プロジェクトの内容を検討するうえでのコンセプトは、「市民・団体・事業者等の“民”と市・関係機関などの“公”が協働して取り組むこと」と、「すぐにはできなくても、5年間の計画に位置づけて、多くの人や機関などに参加を呼びかけながら推進するという展望をもって考える」ということです。

### 【5つのプロジェクト】

プロジェクト ①A	イベント仕掛人
プロジェクト ①B	ALL ASHIYA フェスティバル月間
プロジェクト ②	スマートおせっかい
プロジェクト ③	あしや玉手箱
プロジェクト ④	ワーカー登録（ひとりー役 Part2）（仮）

## プロジェクト ①A イベント仕掛人

### 《検討の背景》

- ・「地域の人顔がわかる」ようにするため、イベントの主催者を支援する仕掛人を考えました。このようなしくみをつくれれば、市民の交流がすすむのではないのでしょうか。

### 《取り組んでいきたいこと》

- ・「イベント仕掛人」は、イベントの情報を集約して発信する「資源提供コーディネーター」の役割を担うとともに、それを発展させて「イベントの分析」も行うしくみです。
- ・「情報収集」はメール、Facebook、Twitterなどのツールを活用して行います。
  - 例えば、市内の多くの自治会が開催している「さくらまつり」の情報を定型のフォーマットで収集します。あわせて「困っていることがないか」（例えば、テントの設営を手伝ってほしい、焼きそばの鉄板を貸してほしいなど）も聞いて情報を流し、協力できるところにつないでいきます。
- ・年間スケジュール等を記載した「イベントマップ」も作成します。
- ・そして、それを活かして、自治会、子ども会、老人会などがしている同じようなイベントをコーディネートし、「団体間のコラボ」をすすめていきます。自治会、老人会とコミスクなどが交流できるイベントもできるとよいと考えています。
- ・つまり、「イベント仕掛人」は情報センターのような役割を担っていくものです。

### （まず、取り組みたいこと）

- ・「さくらまつりマップ」を作成して情報発信します。発展型として「さくらめぐりツアー」も行い、参加者を増やしていきます。「スタンプラリー」なども行っていきます。

### 《取り組むうえで必要となること》

- ・「イベント仕掛人」は情報センターのような役割を担っていくものであり、まとめ役は行政が担うよう、専門のセッションが必要です。
  - 現在は、自治会は市民参画課、老人会は高齢介護課、子ども会は子育て推進課、コミスクは生涯学習課と担当が分かれています。それを専門の部署がつなぐことが望まれます。また、予算も必要です。

① 地域の人の顔が分かる

## イベント仕掛人とは

情報の集約

- 情報の発信... こんなイベントあり
- 資源の提供... コーディネート
- 今あるイベントの活用に向けた分析

イベントを活用して...

- ① イベントの参加者を増やす
- ② イベントの主催者もいかに多く増やす

情報集約の方法 (使用ツール)

- X-LEVEL (問い合わせフォーム等)
- 市のフェイスブック
- ツイッター

イベントの開催場所

- 主催者・連絡先
- イベント名
- 団体間のコラボ

イベント

仕掛人

イベントの主催者 代弁人 利用者

イベントでこんな道具が使われている

イベントが広がっている

イベントが広がっているよ

さくらまつりマップ

4月

① 18:20 00公園

② 2日

③ 3日 4日

④ 5日 6日

⑤ 7日 8日

⑥ 9日 10日

⑦ 11日 12日

⑧ 13日 14日

⑨ 15日 16日

⑩ 17日 18日

⑪ 19日 20日

⑫ 21日 22日

⑬ 23日 24日

⑭ 25日 26日

⑮ 27日 28日

⑯ 29日 30日

⑰ 31日

① 市内 (さくらまつりツアー)

市内で実施しているさくらに関連するイベントを幅広く紹介する。→ その中から予定や好みに合ったものを選んでもらえる。

発展的取組

あ、またらうれしい!!

① ミスツと老人会、自治会 → 世代間での交流がたい。

② いまある中から、見つけた

↓

→ 行政の出番!!

③ 町会から 仕事のいかにして地域に根付いてほしい

↓

④ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑤ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑥ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑦ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑧ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑨ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑩ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑪ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑫ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑬ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑭ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑮ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑯ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑰ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑱ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑲ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

⑳ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉑ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉒ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉓ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉔ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉕ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉖ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉗ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉘ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉙ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉚ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉛ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉜ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉝ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉞ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㉟ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊱ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊲ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊳ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊴ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊵ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊶ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊷ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊸ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊹ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊺ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊻ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊼ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊽ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊾ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

㊿ 町会から 地域に根付いてほしい

↓

市民参画課 自治会

高齢介護課 老人会

子育て推進課 こと老合

生涯学習課 ミスツ

専門部署 行政

スタンラリー ← 全庁的イベント

情報を出していき (収集) ← 知る (基物)

はたして? テマ → 生かして → 融合する。

情報センター

ここに届けば、いかに人や地域のイベントや活動の中核

情報... 相互に... さらなる発展

夏祭り

秋祭り

《検討の背景》

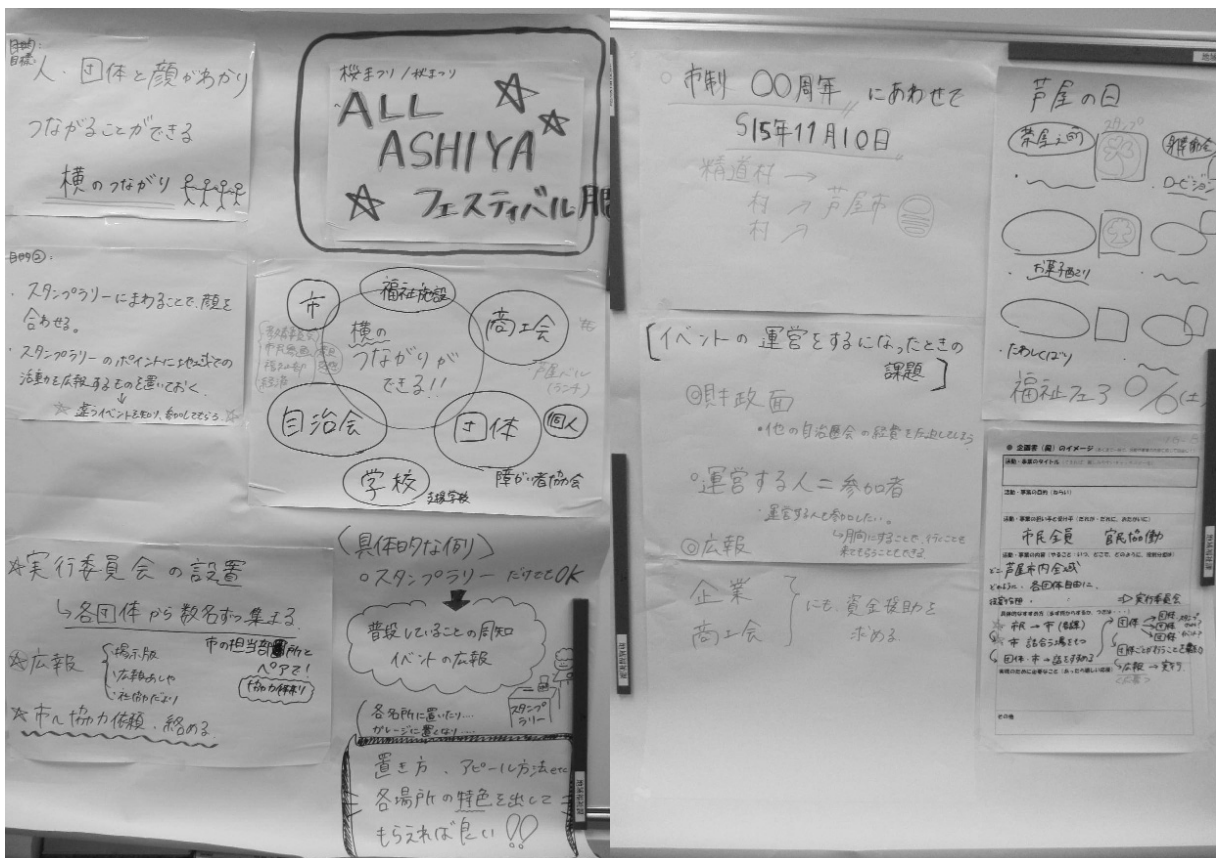
- ・「人や団体の顔がわかり、つながることができる」ことをめざしました。いろいろなイベントが行われていますが、自分の地域以外のイベントにはなかなか参加しにくいので、オール芦屋で行政も絡んでやれば、参加できるのではないのでしょうか。
- ・1日だけでは、イベントを主催している人は参加しにくいので、市制記念日がある11月を「ALL ASHIYA フェスティバル月間」と定めて、いろいろなイベントを行います。

《取り組んでいきたいこと》

- ・自治会やコミスクなどではすでにいろいろな行事が行われており、新たな行事をするのはエネルギーが必要になるので、開催時期を月間にあわせたり、例えば「スタンプラリー」のようなかたちで年間のイベント情報を置いておくなど、柔軟に考えていきます。
- ・11月にはスポーツや文化のイベントが多いので、「ALL ASHIYA フェスティバル月間」の一環とすることで、参加者の層を広げていきます。  
→ 市制記念日（11月10日）にあわせることで、芦屋市を考えるきっかけにもできます。

《取り組むうえで必要となること》

- ・住んでいる地域以外の人に参加するので、参加費をどうするかが問題になります。参加する方も気兼ねするので、行政や商工会などが公的に支援してくれれば、大手を振って参加できます。
- ・イベントの広報も、行政が絡まないとみんなが興味をもつことは難しいです。市全体の取組にしていけば、地道であっても、徐々にみんなが目を向けてくれるようになります。
- ・①Aで提案された「イベント仕掛人」とも、いっしょにやっていきたいです。





## 《検討の背景》

- ・「支援が必要な人を支える」ための方法について話しあいました。そのために「人と人とのつながりをつくる」ことをめざしたプロジェクトです。

## 《取り組んでいきたいこと》

- ・このプロジェクトでつくるものは「DVD」と「居場所」の2つです。DVDは「おせっかい養成講座」、居場所は「かがやきわくわくDoor」と名付けました。
- ・押しつけがましい「おせっかい」ではなく、何気なく自然に人と人がつながるように、だれでも来ることができる居場所からスタートし、そこでの「一日一善」をDVDにつないでいきます。
- ・これらは「困っている人」と「手を差し伸べる人」を対象として、大人も子どももすべての人が取り組んでいきます。
- ・居場所は「まごのて」や市内の施設、場所を提供してくれる市民のお宅で開いていきます。
- ・DVDは居場所での「おせっかいエピソード」を集めて制作し、出前講座を行ったり、貸し出しをして活用していきます。

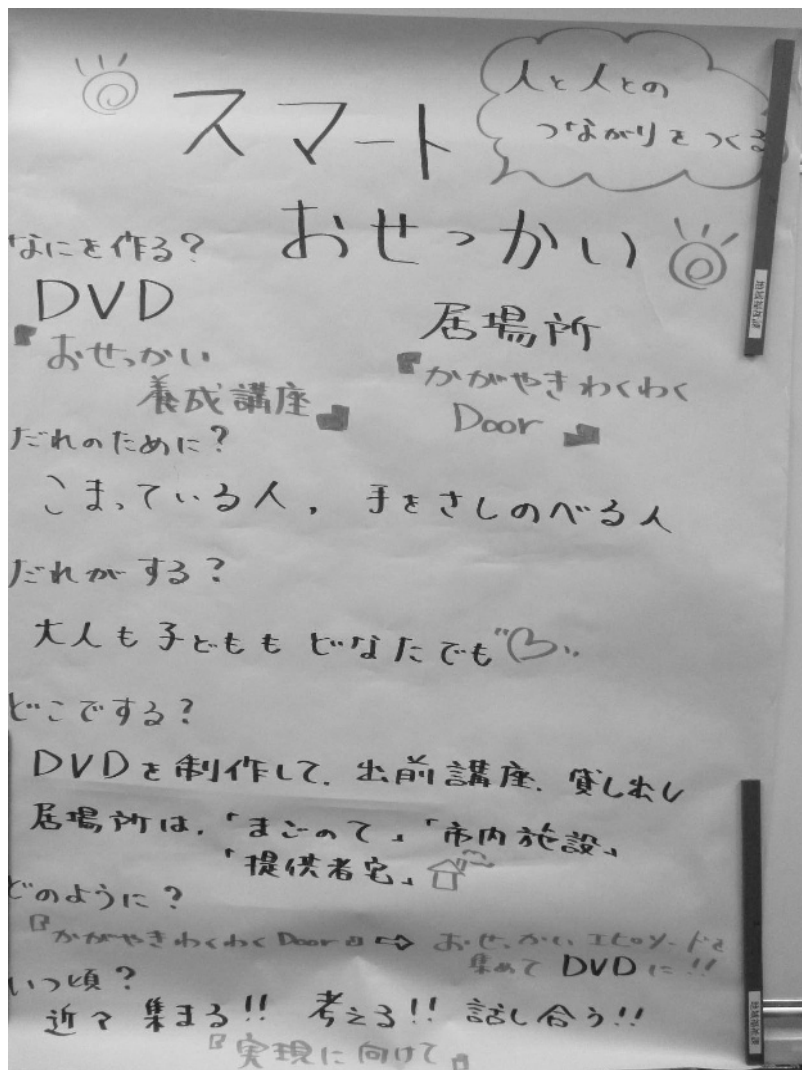
## (まず、取り組みたいこと)

- ・近いうちにメンバーを募って集まり、実現に向けて話しあっています。

## 《取り組むうえで

## 必要となること》

- ・さまざまな活動をしている人に居場所に来ていただき、DVDにも出演していただきます。



## 《検討の背景》

- ・「芦屋市民を情報弱者にしない」という大きな目標を掲げてスタートし、必要な人に必要なときに必要な情報が伝わる方法を考えました。これまでは紙媒体が大きな情報源でしたが、パソコンやスマートフォンを利用する世代が増えているなかでの情報伝達方法の提案です。
- ・特に若い人たちなどで、芦屋に住んでいても地域にはあまり興味がないという人も気軽に情報を見ることができるよう、情報伝達の対象者を広げていきます。

## 《取り組んでいきたいこと》

- ・「芦屋の魅力を発信する」意味の「あしや玉手箱」という名前のサイトをつくります。
- ・Twitter でのつぶやきや、身近なイベント、子育てなどに関する専門機関などからの情報をタイムリーに流していきます。「今月の一枚」として芦屋の美しい情景の写真を市民から募集します。各団体の情報を会員以外の人にも横断的に知ることができるようにします。
- ・情報は福祉や社会教育などの団体に呼びかけて発信していきますが、広がりすぎて收拾がつかなくなるように、専門家を交えて掲載のルールを決めていきます。
- ・市民会議の各プロジェクトの情報も、当然、掲載していきます。
- ・まず、サイトを開けてもらう（オープンセサミ＝開けゴマ）ように、紙媒体も活用して周知を図ります。ネットに詳しくない人への「使い方講座」も行っていきます。

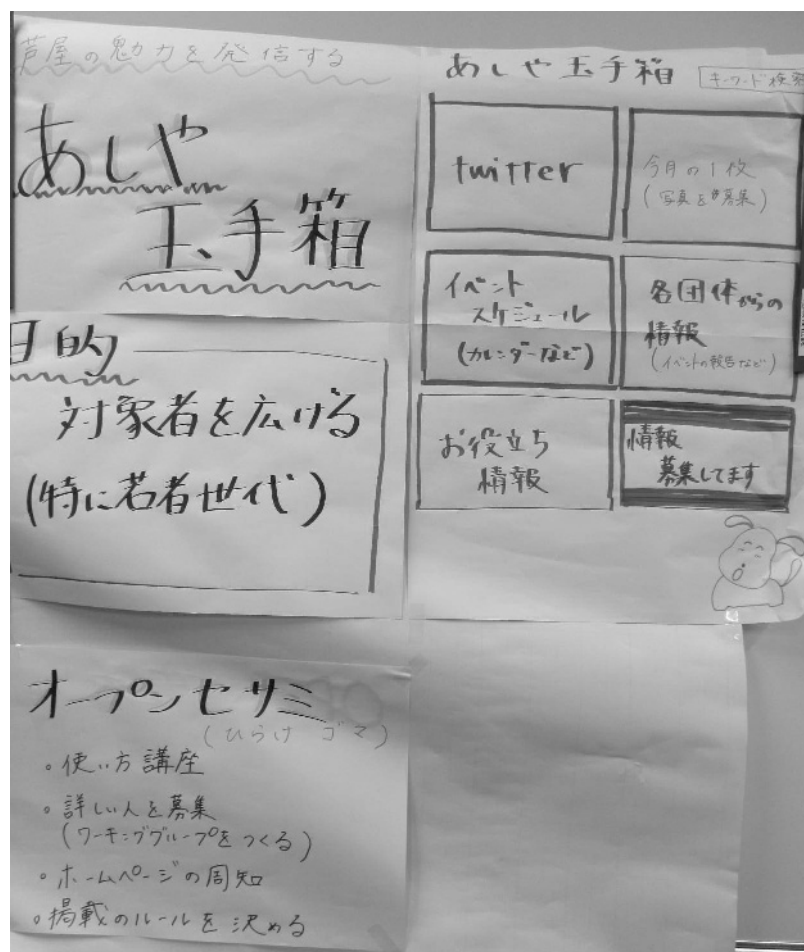
## （まず、取り組みたいこと）

- ・ネットを使った情報発信に詳しい人を募集し、ワーキンググループをつくってすすめます。

## 《取り組むうえで

## 必要となること》

- ・お金のことは議論していませんが、大事なことなので、動き出せば集まると思います。





## 5. 今後の取組の提案（いっしょに取り組みたいこと）

市民会議を終えて、多くの市民が参加し、団体、事業者、市・関係機関等のさまざまな立場の人たちとともに考えながら協働していくことが、芦屋市の地域福祉をすすめていくうえで大切であるということ、強く感じています。

市民会議の成果を活かして地域福祉を推進するために、今後、公民が協働してつぎのことに取り組んでいくことを提案します。

### ① 市民会議の提案を的確に反映し、多くの市民等が参加した計画づくりをすすみましょう。

市民会議の提案を、策定委員会における第3次の計画の検討に的確に反映するために、第2次の計画の策定時に設置された検討部会（ワーキングチーム）のように、市民会議のメンバーも含めて、多くの市民などが計画策定に参加できるようにします。特に、市民・団体・事業者等と市・関係機関が協働しながら、それぞれの強みを活かして役割を分担して、推進できる計画にできるよう取り組みたいです。

### ② 市民会議の経験を活かし、芦屋市全体で地域福祉を話しあう場を続けましょう。

今回の市民会議は、市民だけでなく団体や事業者、市・関係機関の多様な立場の人々が参加することで、お互いの理解を深めながらさまざまな課題を整理するとともに、協働していくためのつながりづくりをすすめることができました。この経験を活かして、各々の地域や団体・事業者等での取組を通じた成果や課題を持ち寄り、芦屋市全域で共有しながら、地域福祉をいっそう推進するための継続的な話しあいの場を設置して取り組みたいです。

### ③ 具体的な活動や事業を公民協働で推進するしくみを、いっそう充実しましょう。

市民会議で提案した5つのプロジェクトをはじめ、地域福祉をすすめるための活動や事業を具体化していくうえでは、中心的な推進役となる組織が不可欠です。芦屋市では第2次の計画に基づいて「地域福祉アクションプログラム推進協議会」が設置され、いくつものプロジェクトが推進されています。この取組をよりいっそう発展させて、充実したしくみとするよう、若い世代も含めた新たなメンバーの参加の促進や、市民の主体性を側面的に支える専門的なバックアップ体制の充実などの取組を、第3次の計画にも位置づけて推進するよう検討していきたいです。

（ふりかえりシートから、会議のすすめ方として参考になるものを拾ってみました ①）

・ **多くの人と出会い、お互いに知りあいになることができました。障がいのある方など、いろいろな立場の人の話を直に聞いてよかったです。**

→ 狭い意味での「市民」だけでなく、団体・事業者・関係機関など芦屋市の地域福祉に関わるさまざまな人に参加を呼びかけたことで、幅広い出会いが生まれ、理解が広がりました。また、多様な課題に対して、役割分担を意識した話しあいことができました。

・ **「理想の姿」を考える話しあいは、とても面白いと思いました。**

→ 課題を突き詰める前に「こうなればいいな」という思いを出しあうことで、前向きな議論がしやすかったと感じます。

・ **検討する「テーマ」を選ぶのにシールを使って投票するやり方が参考になりました。**

→ 「赤は3点、青は2点、黄色は1点」として合計点で優先順位を決めました。ちょっとした道具を使うことで、会議を楽しくすすめることができるのですね。

## 6. 市民意識調査に活かしてほしいこと

市民会議では、主に地域福祉に関する活動や事業に取り組んでいる人が集まり、日頃の取組を通じて感じていることを多様な立場から出しあい、話しあいをすすめてきました。

市民会議に続いて実施される市民意識調査が、市民会議の成果を活かし、効果的に行われるように、つぎの点に配慮して実施されることを提案します。

### ① 市民会議で出された課題を多くの市民がどう感じているか、他にどのような課題があるかを把握する。

市民会議では、多様な立場のメンバーが、日頃の活動や事業、また、市民として生活するなかで感じている多くの課題を整理することができましたが、市民会議での話しあいを活かした仮説を検証することで、さらに多様な市民の方々がどのような課題を感じておられるのか、また、他にどのような課題があるのかを効果的に把握することを期待します。

### ② 地域の活動や話しあいなどに参加していない人が、どのような意見やニーズを持っているのかを把握する。

特に、今回の市民会議も含め、地域で行われているさまざまな活動や話しあいに参加していない、あるいは、参加できない人がどのような意見やニーズを持っているのかを把握するように、できるだけ負担が少なく回答しやすい調査票（質的にも、量的にも）にするなど、工夫されていることを期待します。

### ③ 調査に回答することを通じて地域福祉を理解し、参加する意識をもつ契機となる調査にする。

市民会議では、多様な立場の人の話を聴き、話しあいを重ねていくことを通じて、メンバーの地域福祉への理解が広く、深くなっていきました。市民意識調査も、調査に回答することを通じて地域福祉を理解し、自分自身に関わる問題として、今後、より積極的に参加する意識をもつ契機となるような調査となることを期待します。

(ふりかえりシートから、会議のすすめ方として参考になるものを拾ってみました ②)

#### ・休憩時間の後にみんなでラジオ体操をしたのが印象的でした。

→ メンバーにラジオ体操指導員の方がおられたので、教えていただきました。リラックスして後半の話しあいに入れるだけでなく、みんなの一体感が広がりました。

#### ・「情報提供コーナー」がよいと思いました。

→ せっかくいろいろな活動をしている人が集まっているのだから、イベントや活動の告知をする時間をつくり、参加や協力を呼びかけました。

#### ・話しあいを重ねて、ひとつの企画書をつくることができました。

→ 今回の市民会議は、自主ゼミを入れて6回の会議を開催しました。長丁場になりましたが、お互いの思いを共有し、ひとつのものをまとめるには、それなりの時間が必要だと感じました。また、時間をかけただけに、達成感は大きかったです。

## 7. 市民会議の参加者からのメッセージ

市民会議に参加して、メンバーが感じたことや今後の抱負、市や市民のみなさんに期待することなどをまとめました。

これらのメッセージに込められた思いを地域福祉計画にも活かし、より多くの人とともに、つぎのステップにすすんでいきたいと思います。

地域がますます活性化する事を期待します。 (内野 直幸さん)

[会議に参加した感想] 私自身、地域の福祉活動は日が浅く、正直「市民会議」の存在を今回初めて知りました。生活の中で市民が感じている困り事、生きづらさについて自由に意見が言える場がある、そしてそれがただ話すだけではなく、他人まかせではなく自分達で浮かび上がった課題をどう取り組めば解決できるかという話し合いを経て「計画策定委員会」へ提案できたことは達成感がありました。

[今後の抱負] 何か問題が出てきたときに、これからは「どうしたらいい?」、「何が私はできるの?」、「どんな提案ができるかな?」と思考します。そして、「第4次芦屋市地域福祉計画の策定に向けた市民会議」で、またみなさんと話し合いたいです。

[市への期待] 市民会議の告知を、地域福祉活動をしている市民になさったとのことでしたが、公募をもっと積極的にされたら、もっと多くの意見が出ると思います。「地域福祉」という言葉はちょっとわかりにくいと思います。会議の名称も、例えば「誰もが住みやすい地域づくり会議」とかいかがですか。

[市民への期待] もっといろいろな関係の市民に関心を持って関わってもらいたいです。老人会、学生(小、中、高、大)、子ども会、婦人会、自治会、民生委員・児童委員、福祉推進委員、クリニック、介護事業所、保育園等…。おそらく案内は届いていると思いますが、市民の関わりと市民の力を伝えてほしいと思います。

参加させていただき、ありがとうございました。 (大戸 道子さん)

管理組合で内向きの業務ばかりをやっている中で、今回、市民会議に参加させていただいて、毎回新しい気づきがあり、とても楽しい内容でした。

人は人、自分は自分と割り切っていますが、障がいのある方の状況や加えられた心無い言動を聞くと、それだけで良いのか、何か出来る事はないのかと考えさせられました。

テーマを皆で議論する中でも、経験や実践から出るご意見は、新鮮でいつも参考になるお話ばかりでした。

残念なことに最後の会議を欠席してしまいましたが、また機会があればこのような会合に参加させていただきたいと思います。

講師の皆様と色々お世話をいただいた事務局の皆様方に厚く御礼申し上げます。 (北中 二郎さん)

人と人とのつながりは横につながるので、年上、年下にかかわらず、お互いに助け合える世の中(芦屋)であればいいと思います。 (楠本 慶子さん)

広い年齢層の方が参加したらいいのにとおもいます。顔見知りができ、自分の為になりました。 (佐藤 アケミさん)

私は夢見ている。芦屋の町を大切に思う人がどんどん増えていくことを。  
市民の 市民による 市民のための 開かれた情報ツールとしてホームページ「(仮称) あしや玉手箱」ができるなら、夢は現実に近づくに違いない。

芦屋の駅に降り立った観光客がスマホを取り出して、「さあ、どこに行こうかな？」電車の中、アイパッドで今週の芦屋が見られる『芦屋散策』コーナーを見ている人が「これは〇〇町の並木だな」と独り言。  
『あしやカレンダー』をチェックして「視覚障がいのある人を美術館にお連れする手引きボランティアっていうのは、このことか・・・」と納得している人。  
「桜まつりは続いているんですね」と遠いパリから元芦屋市民の声が届く。  
「精道中学校の音楽会のコーラス聞きました。懐かしい」と東京勤務の長い方から。  
「希望者全員にアイパッドが配られたとか、すごいですね、芦屋は！」と羨む声多数。  
芦屋市民のための「あしや玉手箱」は内にも外にも開かれて、小さな気づきや想いや意見やアドバイスが届いてくる毎日。

#### 「あしや玉手箱」プロジェクトが実現するための提案

- 1) スマートフォン、アイパッドなどのモバイル、パソコンなどに関する専門家を中心にしたワーキングチームの立ち上げ。
- 2) 1) に対応する行政の部署の創設。
- 3) 全市民が対象である「広報あしや」や「社協だより」の担当者もスタッフに参加。
- 4) 教育委員会に属する300を超える社会教育団体やあしや市民活動センターの登録団体、自治会連合会、商工会、専門職の団体（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、建築家、カメラマン、弁護士、会計士、司法書士、コンサルタント・・・）などから市民に知らせたい情報を絶えずキャッチできる体制づくりの構築。

今回の市民会議に視覚障がいのある方々が自主的に何人も参加されていたことはとても印象的でした。意思疎通を図るために工夫を下された地域福祉課のご配慮と参加者のご協力に感謝です。

前回同様、自由に遠慮することなく自分の意見が話せ、異なる意見でも真摯に聞いてくれる雰囲気があったからこそ、長丁場の会議も疲れなかったのだろうと思います。

参加させていただいてありがとうございました。 (杉田 俱子さん)

テーブルファシリテーション講座から参加させていただき、日頃活動していて感じていた事を自由に発言させてもらえた事で、気持ちが前向きになりました。団体の代表者ばかりの会議では、市民感覚を正直に話す事に抵抗感があり躊躇する事が多く、結局言いたかった事が言えなかったとグツたり疲れる事が度々でしたが、今回の市民会議では経験豊富な方と市職員さん同席で、まず私の言いたい事を全部聞いてくれたうえで、話を整理して具体的提案に繋がるように道筋をつけていただき、伝える工夫の必要性を学ぶ事が出来ました。

全5回の会議は毎回学ぶ事ばかりで、まだ文字に表現出来る程整理出来ていませんが、自分の気持ちを整理する事は出来ました。最初の会議から「まごのて」活性化には職員の常駐が必要と訴え続けていましたが、3回目位から職員で無くても良い、あらゆる世代のあらゆる資格や得意な事を持った人達が参加する事で常駐体制が整えば良いと思うようになりました。市民で活動し活発になり、問題が生じれば、その都度相談・調整してくれる窓口があれば活動は広がると思います。

“誰もが住み慣れた地域でその人らしく暮らすには、地域の見守りの目が必要です。”今、元気で自立していても、いつかは誰かの助けを必要とする時が誰にも起こり得ることとっています。元気なうちに自分の顔と名前を覚えてもらって、困った時には顔馴染みの関係で気軽にお願い出来る地域にしたいです。 (西村 京さん)

いろいろな方と交流することや新たな経験をすることができたと思っています。  
みなさんとの話し合いを通して、芦屋のことがよくわかりました。  
みなさんのまちづくりに対して前向きな心が伝わってきて、芦屋のことをもっとよく知りた  
いと思うようになりました。

芦屋のことを知るためにまち探検のようなこともできたらいいなあと思っています。  
みなさんとはこれからも交流を続けたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(新田 美枝子さん)

市民会議に参加して思った事は、芦屋市民の皆様が、住み良い芦屋、いつまでも住み続けた  
い芦屋を目指して真剣に取り組んでおられることです。

地域福祉計画を策定しても、それを地域で実践する人材が必要です。専門家と地域の福祉を  
支える人が協力しあい、一人でも多くの方々がこの町に住んで良かったという地域にしたいと思  
っています。

ただ、最近思うことは年の取り方です。やはり若い時からの考え方、生き方が高齢になって  
大きく影響するということです。是非福祉教育を通し、芦屋の青少年育成に力を入れていただ  
きたいと思います。

(藤井 順子さん)

数回にわたる会議の主催ご苦労様でした。細井課長の挨拶にもありましたが、私も地域福祉  
課の活動は日ごろから高く評価しています。部署に求められる機能もありますが若い職員が市  
民目線で活動しようという姿勢には好感がもてます。会議での発言も非常に的確で、まとめる  
能力の高さはどこも出しても誇れる人材だと思います。

今回の会議を通じての印象は次の通りです。

1. 市民会議の形をとるこのような公民一体の会議はあまり経験がありませんが、日ごろ交流  
のない市民との意見交換の場でもあり、市役所職員の仕事ぶりを拝見できる良い機会だと思  
います。
2. 先の集会所トークで市長に「職員がもっと地域に出て直接、地域の課題を肌で感じ取って  
ほしい。これを業務として遂行するか、もしくは専門部署を設置してほしい」と提案しまし  
たが、今回のいくつかのグループからの企画案推進にも必要ではないかと、私自身再認識し  
た次第です。
3. 障がいのある人の参加があったこと。新しい視点での発言があり、この意見が具体的な企  
画案に反映されたこと。反面、前回に比べ一般市民の参加が少なかったことが残念です。ま  
た、多世代の参加が少ないので、次回は是非、現役世代、子育て世代が参加できるよう週末  
開催も視野に入れてはどうでしょう。
4. 企画案の推進にあたって、私は行政の出番と思いますが、上記3と同様、幅広い多くの市  
民の参加を求めてもらいたいと思います。第2次の計画では、私自身、情報紙に参加してい  
ますが当初に比べてメンバーが減少しており、これでは本当の意味での「市民目線」で作  
成されているのだろうかという疑問を抱いています。
5. 最後に牧里先生の講評にあった「予算」について私も同意見です。企画案実行には「予  
算」が必須で、芦屋市がどの程度認めるか不明です。第2次の計画での予算額は決して大き  
くなかったと思います。芦屋市だけに財源を期待するのではなく、市民会議による計画が他  
市にないユニークなものであるなら、是非とも国、県の助成金も視野に入れるべきと思いま  
す。ちなみに、私の茶屋之町では過去5年間に自治会の活動に関して7件の助成金をいただ  
き活用しています。以上

(本郷 孝さん)



私は現在自治会、老人会に関わっていますが、昨年8月「地域」「市民」という二つのキーワードに惹かれて、一個人、一市民の立場から第1回会議に応募・参加しました。以後、本年1月の第5回最終会議まで多方面でご活躍中の皆さまと熱心に議論することができました。私のグループでは「ALL ASHIYA フェスティバル月間」を開催するという提案をしましたが、その背景となったのは市、社協、民生委員、福祉推進委員、NPO、自治会、老人会などの団体、そして市民が一致協力して立ち上げる企画が欲しいということでした。現在、自治会は市より災害時要援護者名簿をもらい、地域で要援護者一人ずつの支援計画を作成するかの動きにあります。老人会は会員減少傾向に歯止めをかけるため、種々対策を講じつつあります。これらの動きが市民一人一人のニーズに合致したとき、自治会、老人会等の地域団体は一段と存在価値を発揮することになるでしょう。この意味でも今回の市民会議は時宜を得たもので、有意義であったと考えます。

第1回会議でラジオ体操指導員をしている旨自己紹介したことがキッカケとなり、地域で民生委員、防災リーダーをされている楠本様とともに会議の休憩時に皆さまとラジオ体操をさせていただきました。そして皆さまの笑顔がありました。良かったです。（三戸 勝利さん）

提案や希望を実現するという事と同時進行で、今後は若い人が地域福祉に眼を向けてもらえるような取組や学校教育についても考えていかねばならないのでは・・・と思いました。

（目黒 清子さん）

市民会議ははじめて参加させていただきました。二回の参加しかできませんでしたが、いろいろなることはこうして決まっていくのかと知ることができました。今まではそんな会議があることすら知らなかったし、一般の市民のかたも少なかったように感じました。いろいろグループにわかれて話し合いをするなかで、なんとなくどのテーマやグループでも似たような課題があがってきていて、現代社会の光と闇、自由と不自由、個人と家族そしてグループや社会とのかかわりかたなど、とても身近であるがゆえの難しさがあったように思います。でも、それにみなさんまっすぐに向かい合って議論されているのはすばらしいと思います。すぐに解決できるようなものもあるだろうし、果てしなく時間がかかりそうなものもあるだろうし、でも理想やゆめのような地域づくりを話し合えること自体がとても大切なことなのだと気づかせていただきました。どうもありがとうございました。（吉川 隆史さん）

今回市民会議に参加し、まず第一に主旨を十分に理解せずに参加したために、初日は大変戸惑いました。色々とお話を聞くうちに、多くの団体又は個人の方々が参加されていることがわかり、すごい会議だなと思いました。地域福祉の基本的な事、又、夢みたいな事など、それぞれの立場で話をされ素晴らしい事だと思います。これが実際の計画にどのように取り入れられていくのか、楽しみであります。

地域福祉をこんなに真剣に考え、行動しようと思っている人々が存在していることに驚きました。

残念なことは、自分自身の事で都合を十分につけられず、あまり参加できない事です。この会議を企画された皆々様に非常に申し訳なく思います。（若林 益郎さん）

## 地域福祉市民会議ふりかえり

## 地域福祉市民会議 日程

	日程	内容
第1回地域福祉市民会議	8月21日 (金)	第2次地域福祉計画について 日頃の活動などを通して感じる課題
第2回地域福祉市民会議	9月16日 (水)	市民会議で検討していく課題を絞る 「課題が解決された状況」とは
第3回地域福祉市民会議	10月16日 (金)	課題が解決された「理想の姿」とは？ 実現するための「条件」や「活動」
自主ゼミ	11月19日 (木)	市民会議後の活動について グループ間での意見交換
第4回地域福祉市民会議	12月18日 (金)	企画書の作成 発表準備
第5回地域福祉市民会議	1月19日 (火)	各プロジェクトのプレゼンテーション

## 第1回地域福祉市民会議 (8月21日)

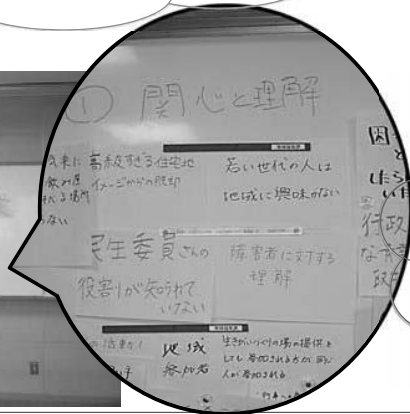
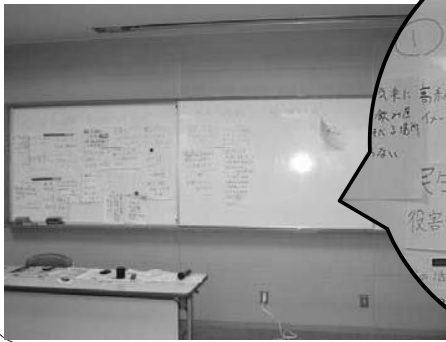


計画策定までの手順や現行の計画の説明

【ワーク】  
普段の生活から感じる課題って  
なんだろう？



出てきた課題を  
テーマ別に分けて  
整理しました！



## 第2回地域福祉市民会議 (9月16日)

第1回で考えた課題の中から市民会議で取  
り組むテーマのシール投票を行いました！



4つのテーマに！

【ワーク】  
課題が解決された状況とは？



## 第3回地域福祉市民会議 (10月16日)

第2次地域福祉計画の  
策定過程より誕生した  
『地域福祉アクション  
プログラム』



現在行っているプロジェクト  
について、始まった過程や現  
在の課題について報告

【ワーク】  
課題が解決された「理想の姿」とは？  
「理想の姿」の実現のための「条件」  
や「具体的な活動や事業」  
って？



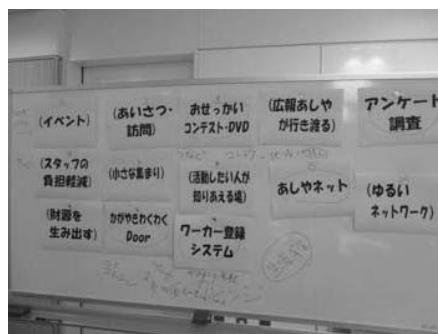
## 自主ゼミ (11月19日)



市民会議が終わったあとどうなる  
のかみんなで共有しました！

- 例)
- ・この会議をきっかけに新しい人に活動  
に入ってもらう
  - ・企画したプロジェクトを実現する
  - ・会議で出て来た案を地域で実現する

それぞれのグループについて意見  
交換や具体的な活動の案などを話  
し合いました。



## 第4回地域福祉市民会議 (12月18日)

どうしたら  
わかりやすいだろう…



もっと違う活動が  
あるのではないか？



## 企画書の作成



## 第5回地域福祉市民会議 (1月19日)

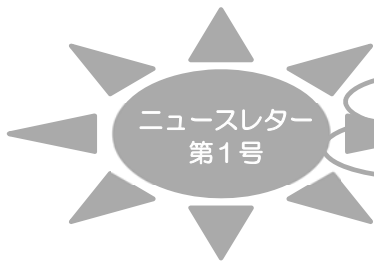
### 各プロジェクトのプレゼンテーション



先生方からそれぞれの活動につ  
いてアドバイスをいただきました。

各グループとも趣向をこらした  
発表に！  
詳しくは各グループのまとめを  
ごらんください！





## これまでの芦屋 これからの芦屋 ～第3次芦屋市地域福祉計画に向けて～

平成27年8月21日 消防庁舎3階多目的ホール

先日行った「地域の福祉を話しあう市民会議（以下 市民会議）」は、公募により、地域活動を積極的に行っている方や障がいをお持ちの方など総勢40名が集い、活発な会議を行いました。このニュースレターは毎回、市民会議の後に振り返りとして発行し、皆さんにお知らせさせて頂く予定となっております。ぜひ、次回の市民会議につなげて頂きたいと思えます。

この市民会議は「第3次芦屋市地域福祉計画」を、市民のみなさん自身の生活により密着した、住民が主体となった計画にするため実施していきます。



### ①地域福祉とは…



市民会議の開催にあたり、寺本福祉部長のあいさつの後、専門員として参加して頂いた関西学院大学の牧里先生と関西学院大学及び桃山学院大学で教べんを取られている佐瀬先生にご挨拶頂きました。

『地域福祉とは非常に説明しづらいものですが、自分と切り離して考えるのではなく、自分の生活や活動の中でつながったものとして地域福祉をとらえて頂き、改めて、福祉という言葉を考える機会にして頂きたい』とこの市民会議に対する思いをお話し頂きました。

### ②第2次地域福祉計画について

話し合い（ワーク）に入る前に、まず、現行の第2次地域福祉計画について、地域福祉課長細井より計画の概要や計画に基づく取り組みの説明し、中学生概要版について紹介されている広報番組の映像をご覧頂きました。

続いて、この市民会議でファシリテーターを担って頂く、エフプラン研究所原田さんより、市民会議の進め方や会議のルールについて、説明が行われました。



### ③ワーク

#### (1) 自己紹介



自己紹介では「①名前、ニックネーム」「②所属」「③行っている活動(業務)」「④今の気持ち」を紙に書き、話して頂きました。

「その活動初めて聞いた!」や「知らないことがまだまだあるんだ!」と自己紹介を通して地域福祉についての様々な考え方を感ずることができ、貴重な学びの場になるのだと感じました。

#### (2) 日頃の活動などを通じて感じている課題

自分が活動している時に感ずる課題について5つのグループに分かれて議論・発表をして頂きました。「自分たちの活動に新しく若い人が入ってこない」や「後継者がいない」などの活動を行う上での課題や、視覚障がいの方から「信号を渡る時に声をかけていただけるとありがたい」などの意見が出てきました。



発表後には、第2次芦屋市地域福祉計画の7つの推進目標ごとに大きく分類し、全体で課題の共有を行いました。

最後は専門員の牧里先生、佐瀬先生から『地域福祉を広げられるような会議になると期待している』『地域福祉は“おせっかい”です。ぜひみなさん“おせっかい”をやいてください』とコメントを頂きました。芦屋市のことを真剣に考えておられるみなさんの情熱を感じた会議でした。



#### 今回の市民会議で出てきた主な課題 詳しくはまとめをご覧ください

- 交差点や街ですれちがった際に声をかけてほしい
- 地域活動の後継者がいない、若い人が入ってこない
- 地域活動参加(ボランティア)へのハードルが高い
- 障がいや地域活動に対する理解・興味がない人が多い
- 居場所づくり
- 居場所の周知
- 見守りの体制づくり
- 相談先がわからない 他

これから市民会議を進めていくキーワードになるかも…!?

『地域福祉を広げる・地域福祉でつなぐ』

**第2回市民会議：9月16日(水) 13時30分～16時30分**  
**消防庁舎 3階 多目的ホール**

＜今後の予定＞

- 第3回：10月16日(金) 13時30分～16時30分 会場：未定
- 第4回：12月18日(金) 13時30分～16時30分 会場：未定
- 第5回：平成28年1月を予定

★次回も、たくさんのご参加をお待ちしております。

また、第2回から参加される方を募集しておりますので、みなさまお誘いあわせの上、ぜひお越しください。その際は事前に事務局まで連絡くださいますよう、お願いいたします。

ご欠席の場合はご連絡ください!

2015年9月4日発行 作成者：片岡 睦美(地域福祉課課員)

事務局：芦屋市福祉部地域福祉課  
TEL 38-2040  
FAX 38-2160

## もっと深める芦屋のこと！ 5年後の理想の芦屋市って？

平成27年9月16日 消防庁舎3階多目的ホール

先日「第2回地域の福祉を話しあう市民会議（以下 市民会議）」を行いました。今回は他の行事と日程が重なっており、欠席された方がおられたため、26名での市民会議となりました。

今回は具体的に何について検討していくかを話し合う段階となったこともあり、前回以上に熱い思いを感じる市民会議となりました。

今回のテーマは「日頃の活動などを通じて感じている”課題”を深め、市民会議で考える“テーマ”を絞る！」です。

会議の進行は、エフプラン研究所の原田さんです。



### ①前回のつづき…



前回各グループで出てきた課題をまとめ、共有し、それをもとに「不足している課題はないか」「まとめたほうがいい課題はないか」を協議しました。「認知症について理解を深めるべき」「地域活動の“担い手不足”や“関心が低い”という課題については“地域活動の活性化”としてまとめた方が考えやすい！など、日頃の活動をとおして、実際、地域にいるから感じるご意見をいただきました。

### ②取り組むべきテーマとは？

テーマが多岐にわたったため、前回出していたいただいた課題と追加で出していたいただいた課題の中で、この市民会議で取り組んでいくテーマを選んでいただくことになりました。

テーマがやや重複しているものも含め、20個ほど候補がある中選ぶのは大変ですが、今回は3色のシール（赤色…3点、青色…2点、黄色…1点）を用いたシール投票にてみなさんの関心のあるテーマを選びました。みなさん大事な3つのシールをどのテーマに貼るか、優先順位はどうするか大変悩んでおられました。集計の結果、次の4つがテーマとして決定しました。





# 市民会議で取り組む4つのテーマ

- ①地域活動を活性化させる必要がある
- ②支援が必要な人がいる
- ③情報を伝えられない・得られない
- ④活動への支援が必要である

今回参加出来なかったという方も第3回からいずれかのグループに入ってください！  
詳しい内容についてはまとめをご覧ください、ご希望のテーマを事務局までご連絡ください。

テーマ：支援が必要な人がいる



最多人数8人！

テーマ：地域の活性化

## ③理想の芦屋市って？

4つのテーマのうち、特に関心のあるテーマを1人ひとつずつ選んでいただき、グループを構成しました。このテーマ別のグループには牧里先生や佐瀬先生にも加わっていただきました。

今回行ったグループワークは「課題が解決された状況を考えよう！」というワークです。まず、5年後の「理想の姿」を具体的に考えていただき、それを実現するためにはどのような条件や活動が必要なのかと考えました。今回の市民会議では、まず「理想の姿」をたくさん出し、次回の市民会議で具体的な活動について考える予定でしたが、「理想の姿」をグループ内で話し合ううちに、「こんな活動があったらいい！」「このような方法はどうか？」と具体的な活動についてまでどんどん話が進んでいく…という場面も多々ありました。

最後は佐瀬先生、牧里先生に議論を進めていく上でのアドバイスを頂き、会議を終了しました。

**第3回市民会議：10月16日（金）13時30分～16時30分**  
**会場：あしや市民活動センター2階 リードあしや 会議室CD**

＜今後の予定＞

- ・第4回：12月18日（金）13時30分～16時30分 会場：市役所東館3階大会議室
- ・第5回：平成28年1月を予定

新庁舎です！

★次回も、たくさんのご参加をお待ちしております。

また、第3回から参加される方を募集しておりますので、みなさまお誘いあわせの上、ぜひお越しください。その際は事前に事務局までご連絡くださいますよう、お願いいたします。

ご欠席の場合はご連絡ください！

2015年10月2日発行 作成者：片岡 睦美（地域福祉課課員）

事務局：芦屋市福祉部地域福祉課  
TEL 38-2040  
FAX 38-2160

# 「こんな芦屋市だったらいいな…」 わたしたちができること

平成27年10月16日 リードあしや2階 会議室CD

先日「第3回地域の福祉を話しあう市民会議（以下 会議）」を行いました。前回休んでおられた方も出席いただき、30名での白熱した会議となりました。

今回のテーマは「課題が解決された『理想の姿』を実現するための、『条件』と『具体的な活動や事業』を考えましょう。」です。

それぞれのテーマでどのような活動を行っていけばいいか地域で活躍される方の貴重な意見を多くいただきました。

会議の進行は、エフプラン研究所の原田さんです。



## ①これからの芦屋市



テーマごとのグループで前回のふりかえりを行ったあと、第2回に出し合ったいくつかの「理想の姿」の中から、1つに絞っていただきました。

人数が多かったグループ「テーマ：地域の活性化」については2つのグループに分かれて話し合っていました。

## ②具体的な活動の事例報告

具体的な活動を考えていただく前に、事例としてすでに様々な活動をしている地域福祉アクションプログラム推進協議会のメンバーの方々に、「わがまちベンチプロジェクト」「市民が市民のために、市民が楽しめる情報紙」「キラッとプロジェクト」の活動のきっかけや内容について発表していただきました。



## ③これからの芦屋市のために！



各グループで絞った「理想の姿」になるための「条件」と「活動」を考えていただきました。

さらに、この中で出てきた「活動」の中からどのように進めていくかをイメージしながら1つ選んでいただきました。「理想の活動はこれなんだけど、自分たちで行うには難しいなあ」など、自分たちで行うことを前提にすると選ぶのは難しいのだと感じました。

#### ④わたしたちにできること



選んでいただいた活動について、各グループで模造紙にまとめていただき、発表をしていただきました。テーマこそ異なっているものの活動の内容が重複していたり、似ている活動も多くあったりなどテーマのつながりを感じました。その後、全グループで質問や意見を交換を行い、今回のワークは終了しました。

最後に佐瀬先生から『市民に何ができるのか』という視点での意欲的な意見が多く、これからの会議が非常に楽しみです。市民と行政との提案型の協働の関係は具体的に動くことができるので楽しくなりそうです」とお話をいただきました。

#### 各グループの取り組み

#### 取 り 組 む 活 動

テーマ①A	・地域でのイベント開催      ・小さなグループで知り合う仕組み
テーマ①B	・イベントを行うために財源の確保のための活動      ・積極的な声掛け
テーマ②	・好きなことを話せる人や場を創る      ・かがやきわくわく Door ・輝け！あしやスマートおせっかいコンテスト
テーマ③	・情報を伝える仕組みづくり
テーマ④	・ワーカー登録の仕組みづくり，マッチング機能

#### 自主ゼミ開催！

今、話し合っているテーマについて自分たちがどのような活動を行うことができるのか、第5回までに企画書を作成します！「まだまだ話足りない！」と思われる方もおられるのではないのでしょうか？今回自主ゼミを開催したいと思いますので自分たちのテーマについて話し合ったり、他のグループに話を聞きに入ったりしていただきと思います。ぜひ、ご参加ください！

**日時：11月19日（木）9：30～11：30**

**場所：市役所東館3階大会議室1**

新庁舎です！

<今後の予定>

- ・第4回：12月18日（金）13時30分～16時30分 会場：市役所東館3階大会議室
- ・第5回：1月19日（火）13時30分～16時30分 会場：市役所東館3階大会議室

★次回も、たくさんのご参加をお待ちしております。

また、自主ゼミから参加される方を募集しておりますので、みなさまお誘いあわせの上、ぜひお越しください。その際は事前に事務局まで連絡くださいますよう、お願いいたします。

ご欠席の場合はご連絡ください！

事務局：芦屋市福祉部地域福祉課  
TEL 38-2040  
FAX 38-2160

2015年11月2日発行 作成者：片岡 睦美（地域福祉課課員）



## 自主ゼミ開催！ 今後の活動について考えてみました

平成27年11月19日 市役所東館3階 大会議室2

先日「地域の福祉を話しあう市民会議（以下 会議）」の自主ゼミを行いました。急な開催であったこともあり、参加者が16名でしたが、会議の大半が話し合う時間であったため、みなさんの思いを話すことができたのではないのでしょうか。

8月21日から始まった市民会議も第3回が終わり、折り返しのタイミングとなりました。ここで「なぜ市民会議を開催するのか？」「市民会議が終わったらどうなるのか？」ということをもとに改めてふりかえり、今後の活動について話し合いました。



### 市民会議のその後

市民会議は第3次芦屋市地域福祉計画が市民の意見を反映したより良いものとなるよう開催してきました。会議での意見等を市民の声としてまとめ、策定委員会に提案をすることが市民会議の目標でした。

しかし、市民会議に限らず、今後のみなさんの活動についていい意見が得られるのではないかとということをもとに、今回みなさんで共有しました。「現在行っている活動に新しい人に入ってもらうため、参加を呼び掛ける必要があることに気が付いた」ということから始まり、「いろいろな意見を聞き、自分たちの活動に活かしていく」「地域について話し合う場を継続していく」「市民会議で作成した企画書を実行していく」等、何を行っていくのかはみなさん様々ですが、市民会議は計画策定だけではなく、これからそれぞれの活動につながっていくものだとということを実感しました。



### グループを超えて意見交換

これからの展開を共有した後、発表を聞いている時に気になっていたことや提案など意見の交換を行いました。他グループの方の意見やアドバイスによってより具体的な活動案が出され、活発な意見交換の場となりました。今回出された意見を裏面にまとめました！



## グループの活動について意見のまとめ

	活動	内容
①-A	地域の活性化	イベントの開催がいちばん効果的である。 他の活動グループと連携を図る。 (例：芦屋川カレッジ、コミスク、生涯学習課等) 【具体的な例】 全市的な行事と連携して、みんなが参加しやすいイベントの企画をする (スタンプラリーなど)
①-B	財源確保	他の地域で取り組まれている活動や方法を広めていく。 ・地域間でどのような取り組みが行われているか知られていない ・どう発信するか、情報収集の方法を検討する
②	スマートおせっかい	「こうすればおせっかいになれる」ということを伝える。 ・どう伝えるか ・ボランティアセンターとの連携を図る 【具体的な例】 「YouTube」などに投稿し、視覚的にわかりやすい伝え方を工夫する
③	情報	どんな人でも伝わる・伝えることができるシステム。 【具体的な例】 IT を利用する (ホームページ、アプリ等)
④	ワーカー登録	いろいろな活動を進める際に専門的な知識をもつ人やサークルなどの助けを借りる。 ・全ての取組につながる ・利用しやすい仕組み (登録しやすい、探しやすい) づくり ・ボランティアセンターとの連携を図る

第4回：12月18日(金) 13時30分～16時30分

場 所：市役所東館3階大会議室1, 2

新庁舎です!

<今後の予定>

・第5回： 1月19日(火) 13時30分～16時30分 会場：市役所東館3階大会議室

★次回も、たくさんのご参加をお待ちしております。

ご欠席の場合はご連絡ください!

事務局：芦屋市福祉部地域福祉課  
TEL 38-2040  
FAX 38-2160

2015年12月9日発行 作成者：片岡 睦美(地域福祉課課員)

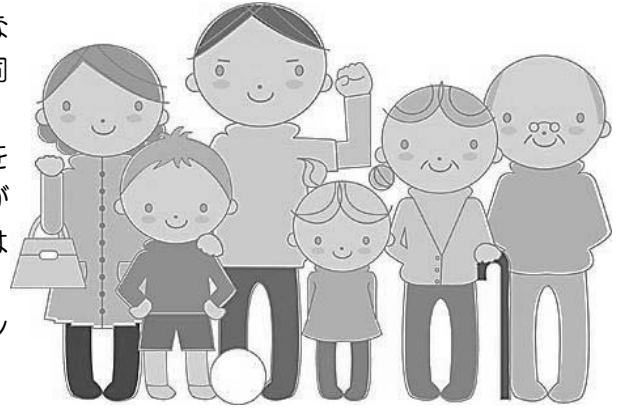
## 企画書作成開始！ わたしたちが考えるプロジェクト

先日「地域の福祉を話しあう市民会議（以下 会議）」の第4回を行いました。2か月ぶりの開催となりましたが、29名の方にご出席いただき、前回同様、熱気のある会議となりました。

第4回では今まで考えてきた活動の企画書作成を始めました。今回は話し合う時間を多く取ることができたので、思う存分話し合うことのできたのではないかと思います。

会議の進行は、安定感、安心感のあるエフプラン研究所の原田さんです。

平成27年12月18日 市役所東館3階 大会議室



### “やりたい福祉”ってなんだろう

最初に牧里先生から「この会議の中で“やりたい福祉”を発見し、確かめあってほしい」とお話をいただき、会議が始まりました。

今回は、いよいよ今まで議論してきた内容について企画書を作成するという段階となりました。

会議の前半では、企画書の内容について話し合いました。「今、話し合っているもので良いのか」「もっと違う活動があるのではないかな」など様々な意見が出されました。

今まで話し合っていたことがそのままテーマとなるグループや、より実行しやすい取組で企画書を作成するグループなど様々でした。

各グループが企画書のテーマを決めたところで、テーマと簡単な内容について発表していただきました。



### リフレッシュタイム♪



発表が終わり、休憩時間となりましたが、休憩中もグループ間でお互いの取組について情報交換をしておられたり、議論をされている姿も見られました。

また、休憩時間には第1回から提案されていたラジオ体操が行われました。ラジオ体操指導員の資格をお持ちの三戸さんと楠本さんのご指導のもと、参加者全員で行いました。ラジオ体操で体を動かすことで、頭も体もリフレッシュされ、新たな気持ちで後半の会議を始めることができました。

## 最終回の発表に向けて



さて、後半の時間は…。ラジオ体操で和やかな雰囲気だったみなさんでしたが、始まった途端に、前半と同様、白熱した議論を行っておられました。

企画書の内容について協議していく同時に、次回の発表について、「どんな発表にするか」「どのようにまとめようか」と様々な意見が出されていました。

本来であれば、最後に各グループから進捗状況や内容について発表をしていただくのですが、今回はみなさんの議論が白熱していたため、発表する時間を議論にあていただき、各グループの発表は次回でのお楽しみとなりました。

最後には佐瀬先生、牧里先生から「具体的な話が出ており、ここにぜひ芦屋らしさを入れていただきたいと思っています。次回の発表がとても楽しみです。」「この計画は未来の姿を示し、導いていく推進役です。過去を踏まえた上で未来を引き寄せるような計画になるよう考えていただければ良いのではないのでしょうか。」とお言葉をいただき、会議は終了となりました。

## ●○各グループの企画書のテーマ○●

テーマ①A	『イベント仕掛人』 イベントの活用やイベントをしたい団体の支援を行えるよう、情報収集し、発信や分析、企画等を行う。
テーマ①B	『ALL ASHIYA フェスティバル』 全市的なイベントに合わせ、各団体でも出し物を行う。(スタンプラリーなど)
テーマ②	『おせっかいってなんだろう?』 おせっかいできる人を養成し、活動できる場をつくる。
テーマ③	『芦屋の魅力を発信する あしや玉手箱』 芦屋のお得な情報が盛り込まれたホームページを作成する。
テーマ④	『ひとりー役 Part2 ワーカー登録(仮)』 誰もが活き活きと役割を持って暮らせるための活動を行う。

## 次回最終回！！

第5回：1月19日（火）13時30分～16時30分

場所：市役所東館3階大会議室

★次回も、たくさんのご参加をお待ちしております。

ご欠席の場合はご連絡ください！

2016年1月6日発行 作成者：片岡 睦美（地域福祉課課員）



事務局：芦屋市福祉部地域福祉課  
TEL 38-2040  
FAX 38-2160



## 第3次芦屋市地域福祉計画に向けて！ わたしたちが考えるプロジェクト

平成28年1月19日 市役所東館3階 大会議室

先日「地域の福祉を話しあう市民会議（以下 会議）」の第5回を行いました。8月21日に第1回を開催したこの会議も自主ゼミを含めて、今回で6回目となり、ついに最終回を迎えました。

今回は28名の方にご出席いただき、第3次芦屋市地域福祉計画策定に向けて、市民のみなさんの思いを込めたプロジェクトのプレゼンテーションを行い、これまでの集大成となる会議となりました。

会議の進行は、ソフトな口調で優しい笑顔のエフプラン研究所の原田さんです。



### これまでのふりかえり

最初に、牧里先生から「これからの地域福祉に必要なことは積極的に関心を持つこと、つまり、おせっかいであることだと思っています。芦屋の“おせっかい”を“おせったい”に変えていけるように考えていきたいと思っています。」とお話をいただき、会議が始まりました。

まず、写真を交えたパワーポイントでこれまでの会議の中で取り組んできたワークや出てきた意見などを振り返りました。半袖の服装で臨んだ第1回目の市民会議から5か月を経過し話し合ってきた時間の長さを改めて実感しました。

そして、各グループでプレゼンテーションの最終準備を行いました。今まで話し合ってきたことを、わかりやすいよう模造紙にまとめたり、誰が発表するか、どのように説明したら伝わりやすいか、グループで様々な案が出されていました。



### リフレッシュタイム♪



各グループの発表の準備が整い、休憩をはさんだあと、ラジオ体操を行いました。前回同様、ラジオ体操指導員の資格をお持ちの三戸さんと楠本さんにご指導いただきました。

今回は時間の都合上、ラジオ体操第一のみでしたが、白熱した議論のあとで、みなさんのびのびとリフレッシュし、プレゼンテーションを迎えることができました。

各グループの発表については2ページ以降をご覧ください！



## イベント仕掛人

グループ①Aのテーマは「地域活動を活性化する必要がある」です！

『イベント仕掛人』が、地域の様々なイベントに関する情報を収集し、開催のお手伝い（道具の貸出しの情報や人手等）をするというプロジェクトです。

また、収集した情報を分析することで、団体間のコラボレーションを促すアイデアもありました。具体的には「さくら」がテーマのイベント情報を集約した「さくらまつりマップ」の作成を提案されていました。



## ALL ASHIYA フェスティバル

グループ①Bのテーマは「地域活動を活性化する必要がある」です！

『ALL ASHIYA フェスティバル』と命名し、全市的なイベントに合わせて各団体で便乗するような形で様々な出し物をするというプロジェクトです。

一つのイベントを軸に様々な団体が参加し、開催するため、人と人、団体と団体が顔のわかる関係となり「横のつながり」ができ、また、参加している団体を回るスタンプラリー等を行うことで、より多くの方に参加していただけるのではないかとまとめられていました。



## スマートおせっかい

グループ②のテーマは「支援が必要な人がいる」です！

支援が必要な人に、さりげない手助け『スマートおせっかい』ができるようなきっかけを創るプロジェクトです。

まず、スマートなおせっかいができる人を養成するためのDVDと、誰でも行くことのできる居場所が必要であると提案され、具体的な内容や場所についてもアイデアをまとめてられました。また、発表の中ではグループのメンバーが近々集まることも決められており、実現性の高さを感じました。



## あしや玉手箱

グループ③のテーマは「情報を伝えられない・得られない」です！

誰でも気軽に「情報を発信することができる」「情報を受け取ることができる」ホームページ『あしや玉手箱』を開設するという提案でした。若者世代に広く普及しているインターネットを利用することで、対象者を拡大することを大きな目的とされていました。

開催するにあたり、「詳しい人を含めたワーキンググループを作る」、「ホームページのルールを作る」、「インターネットの使い方講座を行う」など、具体的な手順もまとめられていました。



## ワーカー登録 ひとり一役 Part 2 (仮称)

グループ④のテーマは「活動への支援が必要である」です！

誰もが、活き活きと役割を持って楽しく暮らせるための活動を目的とし、第2次芦屋市地域福祉計画策定時にも提案されていた「ひとり一役」の進化版として提案されていました。みなさんに親しみを持ってもらうために愛称を公募するようです。

資源確保も含めた受け手と担い手をつなぐための仕組みや活動を行うことの効果など、プロジェクトを継続していくために必要なことについてもまとめられていました。



## これからの活動について

先生方からの講評では、「何をするにしろ、大切なのは“人”であることを実感しました。また、みなさんが考えていくにあたり、実践的な場面をイメージして、それぞれが考え方をきっちり整理されたと思います。」「地域のみなさんと市役所の職員が協力し、芦屋をみんなが積極的におせっかいする“おせっかい共和国”にしてほしいと思います。」とこれからの活動に向けてアドバイスをいただきました！

これからは市民会議の結果を踏まえて策定委員会で第3次芦屋市地域福祉計画を作成していきますが、ぜひみなさんと今回発表していただいた活動の実現に共に取り組んでいけたらと考えております。5回の市民会議は終わってしまえばあっという間だったと思います。これからもみなさんに地域について語る機会を継続していただきたいと思います！

最後に寺本福祉部長より、みなさんへのお礼を述べ、「みなさんの声や行動からまちは大きく変わります。これからもみなさんと共に取組を進めていきたいと思います。」とお伝えさせていただきました。市民会議が終了となりました。



## 事務局より

長きにわたり、市民会議に参加してくださり、ありがとうございました。

市民会議の中の、皆さんの姿勢は大変勉強になりました。

前回の計画策定の時と比べて、「地域福祉」は行政の中での評価が非常に高くなったと感じています。

地域福祉計画は策定するだけでなく、どう推進するかということも非常に大事です。これまでの推進の取組が高い評価につながったのではないかと自負しております。芦屋市では「地域福祉アクションプログラム推進協議会」という市民の皆さんと地域福祉課の職員が協働して地域福祉を推進する仕組みができています。その仕組みを活用しながら、これからもここにお集まりの皆さんや多くの方と取り組んでまいりたいと考えております。

(事務局 細井・浅野)

# 地域の福祉を話しあう 市民会議

## さまざまな助言をくださった おふたりの先生

学識経験者 牧里 每治 先生  
学識経験者 佐瀬 美恵子 先生

やさしい笑顔の  
エフプラン研究所  
原田 仁さん

## 参加してくださったみなさん

上野 義治さん	内海 喜代子さん	内野 直幸さん
大戸 道子さん	大永 順一さん	北中 二郎さん
楠本 慶子さん	佐藤 アケミさん	杉田 俱子さん
達城 あや子さん	七村 千里男さん	新田 美枝子さん
藤井 順子さん	本郷 孝さん	三戸 勝利さん
宮崎 ミヨさん	向井 節子さん	目黒 清子さん
吉川 隆史さん	若林 益郎さん	

## 市民委員のおふたり

竹迫 留利子さん  
西村 京さん

## 関係機関のみなさん

東山手高齢者生活支援センター	エルホーム芦屋
佐野 晶子さん	神園 道明さん
税所 篤哉さん	柴原 明広さん
潮見高齢者生活支援センター	あしや喜楽苑
藤崎 裕子さん	小林 浩司さん
宮本 紘子さん	社会福祉協議会
大島 真由美さん	園田 伊都子さん
立木 綾さん	三芳 学さん

## 事務局 福祉部地域福祉課

寺本 慎児	細井 洋海	吉川 里香	浅野 理恵子	元木 舞
宮本 ちさと	金森 早希	宮川 千明	片岡 睦美	

参加者 45名

2016年2月9日発行 作成者：片岡 睦美（地域福祉課課員）





**第3次芦屋市地域福祉計画の策定に向けた  
「地域の福祉を話しあう市民会議」  
報告書**

**平成28年2月**

発行 芦屋市

編集 芦屋市 福祉部 地域福祉課

〒659-8501

兵庫県芦屋市精道町7-6

Tel 0797-38-2040

Fax 0797-38-2160